



下水道の導入

「水をきれいに！水洗は文化のパロメーター」を合言葉に市内では平成3年から下水道の供用が開始されました。

いち早く下水道を導入したのは夜須町でした。夜須川に油や洗剤など生活排水が流れ込み、海水浴でにぎわう手結の水質が悪化したためです。

下水道が整備され、加入世帯が増えるたびに水がきれいになり、海水浴客に喜ばれました。

キレイな水を

下水道には長期計画があり、本年度は野市町東町を中心に整備されます。市内の処理施設整備対象人口は一万三千二百一十一人と、多くの住宅密集地を通り、たくさんの方が恩恵を受けています。

新たに整備される地域は、工事前に地元説明会を開き、各家

次世代を担う子どもたちへ



庭に文書を配布するなど加入への理解を広く呼びかけています。

しかし、普及整備が進む中、加入率は約60%しかありません。これは初期整備に資金がかかるため、新築であれば加入しやすいけれど、既存住宅となるとためらってしまいます。

そのため、少しでも多くの人に理解してもらおうと市内のイベントでは下水道のパネル展示や無料の下水汚泥肥料を配り、下水を身近なものにと普及活動も行っています。

下水道の整備されていない地域でも、家の敷地内に合併浄化槽を設置し、汚水をきれいな水に分解して水路に流すようにしています。

水環境学習

6月16日(月)に野市小学校4年生の児童約85人が野市町土居にある汚水処理施設「野市浄化センター」を訪れました。

この施設は家庭などの汚水を微生物で分解し、きれいな水にして放流しています。

この日は汚れを分解する微生物を顕微鏡で見たり、トイレットペーパーを使った実験をしたりときれいな水に戻す大切さを学習しました。

野市小学校に限らず、市内の各学校でも汚水処理場を見学したり、自分たちのまわりの水環境も勉強しています。

水をきれいにすることの大切さを子どもたちから学ぶことは未来の担い手を育てるうえで大切なことです。

水に親しむ



水は太平洋へ

川から海に流れ込んできた水は海水と混じって海になるよ。そこで山から流れてきた土や、川から一緒になったゴミが海へ混じると、海が汚れてしまつて漁業のお仕事をしている人々を困らせてしまうんだ。そんなことがないように山も川も海もきれいな環境にしておかなくちゃいけないだね！

海は交流の拠点

市内の海を会場とするイベントは多く、春の「土佐赤岡どろめ祭り」に始まり、「無人島長平祭り」や夏の花火イベント、「マリンスポーツフェスティバルYASU」などもすべて海が会場です。

たくさんの方が行き交う海は交流の拠点です。そんな海や

環境を守るために

このような盛り上がりを見せる夜須沿岸の水質の悪化が今、心配されています。

ヤシイパークの海水浴場水質検査の結果、今年もふん便性大腸菌が微量ながら検出されたため3年前の「特良好IIA」

海岸が汚いとすてきな思い出も台無しです。ふたたびこの海に來たいなと思わせる、きれいな環境を維持することも必要と言えます。

マリンスポーツが活発なのは海水浴場のある夜須の海。マリンスポーツ施設「シースポ」を中心にヨットやシーカヤックなど各種スポーツに力を入れています。昨年度策定された「マリンスポーツ振興計画」ではマリンスポーツを楽しむために自然環境の保全を行い、アドバイザーと協力し、環境を良くしていくことを考えています。

関係機関からも、海水浴場の

水質モニタリングや川の水质モニタリングを定期的に行っていくことや流域住民に対する水質保全の啓発を行っています。関係機関からも、海水浴場の水質モニタリングや川の水质モニタリングを定期的に行っていくことや流域住民に対する水質保全の啓発を行っています。



水の旅④

下水道の整備対象人口と平成20年の加入率

	公共下水道	特定環境保全公共下水道	農業集落排水	漁業集落排水	対象人数合計
平成3年	—	133人	—	—	133人
平成5年	—	815人	—	—	815人
平成10年	—	1,666人	1,703人	—	3,369人
平成15年	2,900人	3,194人	5,260人	318人	11,672人
平成20年	3,544人	3,640人	5,645人	292人	13,121人
平成20年の加入率	59.3%	70.5%	53.3%	55.1%	



野市浄化センターで水環境学習「私たちの使った水のゆくえ」を学ぶ



水の旅③